

実践8 「タイムラプスの動画で配信」

概要 Aさんのオクラとの関わりから、新たな保育のツールとしてICTを用い、タイムラプス動画でオクラの生長を家庭に配信。親子で思いを共有し、愛情をもって対象物に関わっていく心の揺らぎを丁寧に考察しています。

ポイント 子どもが思いを寄せる『きっかけ』に着目。そこからフローチャートで分析し、その要因がどのように関連し合っているのかを探っています。記録による記述とフローチャートという二重の記述の描写によって、子どもの内面からの『きっかけ』を、構想図に表し、園独自の「科学する心を育てる」保育を考えています。

京都市立明德幼稚園

4歳児

事例：オクラとの関わりを通して

※タイムラプスとはカメラの動画撮影手法の1つです。タイムラプスで撮影を行うと、ゆっくりとコマ送りにしたような動画を録画できます。

場面1：タイムラプスの動画で発信 ～保護者の関心の高まりが親子で思いを寄せる『きっかけ』に～

オクラの成長をタイムラプスで撮影する 7月8日

登園して、親子でオクラの様子を見ながら「大きくなってね」などの会話をしている。週明けは特にオクラの生長の変化が分かりやすい。植物でもやっぱり生きてるんだって実感が。朝咲いていたオクラの花が夕方には萎む。じっと見てもその変化はなかなか感じられない。いつの間にか、そうなっている。私は試しにスマートフォンでタイムラプスの動画を撮ってみた。撮ったのはAさんのオクラだ。約12時間の撮影で、オクラの大きさの変化は分かりづらかったものの、無風状態の室内なのに、葉っぱがゆらゆらと揺れていた。私はとても面白いと思った。

令和2年7月9日(木)

この動画をすぐにAさんと母親に見せた。母親も私と同じように驚き、喜んだ。Aさんは言葉には出さなかったものの、動画に写っている自分のオクラを繰り返し眺めていた。

令和2年7月10日(金)

撮影時間を長くすることでオクラの実が大きくなる様子が撮れるかもしれない。オクラが成長して大きくなる動画はインターネットで検索したら簡単に見ることができる。しかし、「自分の」「友達」のオクラを撮影したものと分かったら子どもたちの受け止めも違うだろう。撮影の準備から開始までを子どもたちと楽しみを共有しながら行った。

2回目の撮影は週末を迎える金曜日の保育中～月曜日の朝(約72時間だが、実際見せたのは必要な部分を編集し約48時間)である。動画を見るだけでなく、見るポイントを示した方が分かりやすいと考え、担任のナレーション付き。「無風状態なのに揺れていること」「オクラの実が伸びていること」がポイントである。オクラの実をズームアップすることでさらに伸びていることが分かりやすくなった。編集した動画を保育室にパソコンを置き、子どもたちが見られるようにしたこと。また家庭でも見ることができるようYouTubeにもアップした。夏休みはオクラを家に持って帰っての栽培となるため、夏休み直前となるこのタイミングでオクラへの関心が親子で高まり、栽培を楽しんでほしいと思った。



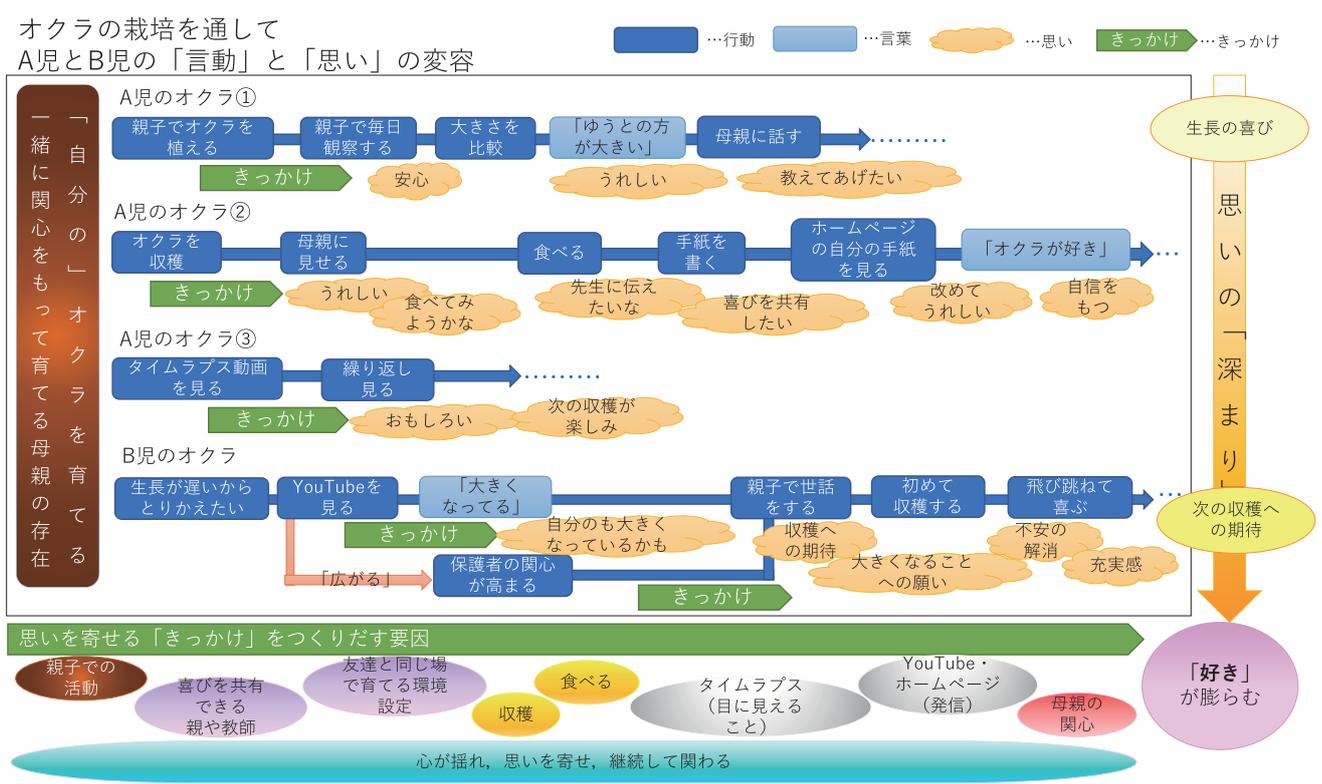
【考察】



子どもたちは「オクラが大きくなってた」「葉っぱが揺れてた」「先生の声が聞こえた」「楽しかった」という反応が多く、「オクラは少しずつ成長しているんだ」と感じられることには個人差があった。それより反響が大きかったのは保護者の方だ。「オクラが生きているのがよく分かった」「初めて大きくなっているところを見た」など、関心が高まった様子である。これから親子での栽培活動が始まるにあたって、保護者が関心をもつことで子どもへの働きかけも変わるだろう。タイムラプスの動画をYouTubeで全家庭に発信することでオクラへの思いが「広がる」ことにつながった。

場面2：Bさんのオクラ ～タイムラプスの動画を『きっかけ』に親子で思いを寄せる～

とりかえたかったけれど 8月7日
Bさんのオクラは他のオクラよりも生長が遅かった。そのことは本人が一番気にしており、ある日母親に「他のオクラと替えてほしい」と訴えていたそうだ。他の子どもが収穫を喜んでいる中、Bさんは一学期中、一度も収穫ができなかった。
 夏休みに入り、電話で話をする機会があったため、気になっていたオクラについて聞いた。**Bさんは家で母親とYouTubeを見て、「大きくなってるな！」と嬉しそうに話していた**そうだ。夏休みも母親と一緒に水やりをがんばった。そしてついに収穫の時。Bさんはこれまで以上に飛び跳ねて喜んでいたのである。そして次に収穫できそうなオクラを眺めながらいつも楽しみにしていると聞き、嬉しく思った。



植物の“収穫”は心を動かす大きな『きっかけ』であり、思いが深まっているほど喜びも大きい。そして次はいつ収穫できるかなとさらに思いが膨らむとAさんのようにオクラが「好き」なものへと変容していく。
 タイムラプス動画は“見える”ことでさらに思いを寄せる『きっかけ』となった。4歳児には早送りの動画であることへの理解が難しいところもあったが、保護者の関心の高まりが親子で栽培を楽しむことへとつながり、おもしろさを“共有”することの大切さを感じるとともに、“視覚的”に発信できるタイムラプス動画のよさを実感することができた。

[考察] 夏休みに入り、子どもたちは自分のオクラを家で世話をしている。YouTubeで発信して以来、保護者から「肥料はどれぐらいの頻度であげた方がいいか」という質問を受けたり、「夏休みに入ってから何本か収穫している」と喜びの声を聞いたりなど保護者の栽培への思いが広がった。
 B児にとっても、YouTubeを見ることで、オクラへの思いを取り戻す『きっかけ』となった。そのタイムラプスの動画が、オクラが成長していることへの気づきや自分のオクラもこれから成長していくことへの期待へと変えた。母親と一緒に見ることで、「B児のオクラもきっと大きくなって、もうすぐ収穫できるよ」と収穫の日を楽しみになるように声をかけ、B児の気持ちを支えたことだろう。
 “母親と一緒に”に気持ちを共有できたからこそ、喜びも大きい。B児にとっては一度気持ちが落ち込んだからこそ、喜びはひととき大きかったことだろう。“次の収穫”を楽しみにするとともに、“自分の”オクラへの思いが「深まっている」と感じ取れる。